

中央公民館主催「ウィンタースクール」活動報告

□報告者／

教育学科 3年:橋本尚明、末永季咲希、高橋ほの香
 グローバルコミュニケーション学科 1年:重永優育 2年:大畑陽歌里
 心理学科 3年:明本紗樹

<事業名>ウィンタースクール「英語でクッキーを作ろう」

- 日 時／2025年1月31日(日) 14:00～16:00
- 場 所／広島市文化財団 中央公民館(中区西白島町 24-36)
- 参加者／小学生先着 20名
- 学生ボランティア／6名(本メンバー4名、当日メンバー2名)
- 内 容



活動内容	実施報告
クッキーづくり 	スタッフが簡単な英語で作り方を説明しながら手元の映像をスクリーンに映し、子ども達は説明を聞いたり映像を見たりしながらクッキー作りを行った。いくつかの単語の日本語訳を書いた、簡単な英語で作成したレシピも用意したが、中には積極的に英語を読んで作ろうとした児童も見られた。
簡単な英語を用いてお菓子の出身国・国旗の色当てクイズとダンス 	クイズでは、クッキー作りを行ったグループごとに協力しながら答えを話し合い、子どもたちは楽しそうに取り組んでいた。お菓子の出身国や国旗の色を考える活動を通して、英語や外国の文化に自然と触れる機会となって良かった。ダンスでは、低学年から高学年までが一緒に体を動かし、英語を聞きながら楽しく参加する姿が見られ、全体的に大いに盛り上がった。短い時間ではあったが、複数の活動を組み合わせることで子どもたちを飽きさせることなく、英語への興味や関心を高めることができたと思う。



<感想・振り返り>

- 4 回目となった今回、今後の引継ぎを考えた運営やボランティアスタッフ編成の変化、デジタル機器の積極的な活用とチャレンジの多い回だったと思う。これまでの反省を活かし良くなった点もあった一方で、課題も多く残った回であった。自分自身が携わることができる残り 2 回のイベントの自分自身の役割も考えながら、参加してくれる子ども達に特別な思い出や経験を届けられるように、自分自身もグループとしても成長しながら取り組んでいきたい。(橋本)
- ボランティアに企画から参加し、準備の大切さや準備したからこそこのやりがいを感じる事ができた。また、ボランティアを継続して行うことで、前回の反省を蔑ろにすることなく、活かす事ができたと思う。また、子どもたちの興味や関心についても近くで観察することができたため、とても学びになった。教職についての際にも活かしていきたいと思う。(末永)
- クッキー作りは子どもたちがとても楽しそうに作っていて、イベントを作ることができて良かったなと感じた。イベントが終わり振り返ると子どもたちの 1 つの経験のきっかけとなれたイベントを作ることができて嬉しく感じた。この経験を教員になった際にも活かしたい。(高橋)
- 今回ボランティアに参加させていただき、子どもと関わることの楽しさと難しさを実感した。全員を同じくらいのスピードで平等に進めていくのはとても難しかったが、楽しそうにクッキーを作っている子どもをみて、自分まで嬉しい気持ちになった。(重永)
- このボランティアには今回が 2 回目の参加で、当日は進行役を任せられたので前回より緊張していた。自分が上手く務めることができたかは分からないが子どもたちの笑顔を見ることができ、とても嬉しく感じた。2、3ヶ月前からメンバーで集まって活動の内容を考えたり、必要なものを作成したりと大変なことも多いが、その分子どもたちの喜ぶ姿が見られた時の達成感がある。また次回も参加してより良いイベントにできたらなと思っている。(大畑)
- 明るく楽しめる活動の進め方や、子どもとの接し方のコツを少しずつかむことができた。子どもたちとの会話が途切れず続いたことで場の雰囲気も和やかになり、活動全体がとても心地よい時間になったと感じている。(明本)